

児童労働反対世界デー・キャンペーン 2009



6月12日は国際労働機関(ILO)が定めた児童労働反対世界デーです。今年もこの日をまたぐ2009年5月5日～6月30日にかけて、児童労働ネットワーク主催の児童労働反対世界デー・キャンペーンが開催されました。今年のテーマは「最悪の児童労働と少女」。これは、日本を含む169カ国が批准している、「最悪の形態の児童労働」条約発効10周年にあたり、特に少女が危険にさらされているためです。「最悪の形態の児童労働」とは、人身売買、子ども買春やポルノ、借金による労働等を指し、この条約はこのような労働に対し即時に行動を求めています。しかし最悪の児童労働はなくなっておらず、特に被害に合いやすいのが、少女です。ただでさえ教育を受けられるチャンスが男子より少なく、家事労働などの負担が大きい少女たちの現状を改善するために、イベント開催、缶バッジ販売、メディアを通じた発信、署名活動を行いました。今年のキャンペーンには児童労働ネットワークの19の会員団体と、14のキャンペーン賛同団体が加わり、キャンペーン期間中北は仙台、南は福岡まで、各団体による18のイベントが開催されました。

●メインイベント

「最悪の児童労働と少女 ～闇の子供たち上映会+シンポジウム～」

2009年6月6日に行われた「最悪の児童労働と少女 闇の子供たち上映会+シンポジウム」では、チケット400枚が完売しました。アンケートを見てみると、初めてこのイベントに参加した人が84%で、参加理由として、テーマに関心を持った方が214人中161人、映画に関心を持った人が110人で、本イベントの目的・趣旨を理解して参加した方が多く見られました。また、参加者は大学生が最も多く33%を占めました。

第一部で「闇の子供たち」を上映した後、この映画のプロデューサー椎井友紀子さんがゲスト出演し、この映画を作ったいきさつをお話いただきました。子どもが被害に合っている現場の性的描写はかなりショッキングですが、椎井さんは「映画的手法で実際の描写を省くことも出来たが、監督は敢えて選んでこうした。実際にこういう場面を文章ではなく『目にする』ことがある人は少なく、これが事実と知ること、想像の域を越えて現実を目の当たりにすることになると考えた。」と説明され、映画を観た直後のお話だけに、「椎井さんのお話が聞いて良かった」と答えた参加者も多くいました。

ILO 駐日事務所代表の長谷川真一さんから世界現状の報告を受け、パネルディスカッションでは森田明彦さんがモデレーターを務め、「最悪の形態の児童労働をなくすためにわたしたちにできること」をテーマに、斉藤百合子さん、甲斐田万智子さん、百瀬圭吾さんがタイやカンボジアでの少女買春や人身売買の実態、日本の課題について話し合われ、参加者からも「映画を観た後で、わかりやすかった」と好評でした。イベントの最後には「STOP! 児童労働」のメッセージを込めて写真撮影を行いました。



キャンペーンメインイベント(6/6)、参加者約400名と、「STOP! 児童労働」のメッセージを込めて写真撮影

●「児童労働をなくそう! 3万人署名」

73,988人に届き、目標達成!

世界では2億1800万人もの子どもたちが児童労働を強いられており、その約半数は少女です。学校に行けない子どもたちに教育という幅広い選択の機会を与え、貧困の罠から抜けだし、人間としての尊厳を伴った生活を与えることは必要不可欠です。また、母親が教育を受けているほうが、乳幼児の生存率が高くなる等の報告もあり、いのちを守るためにも少女への教育は必要で、かつ将来の世代のより良い生活への鍵となっています。少女たちを児童労働から保護し、無償で質の良い教育を実現させる、この両方が今必要です。そこで、児童労働ネットワーク(CL-Net)は世界の児童労働撤廃に向けて、署名を通し日本政府に以下のことを求めます。

1. 日本も批准しているILO第182号「最悪の形態の児童労働」条約、第8条にあるように、最悪の形態の児童労働をなくすための国際協力を強化してください。また、児童労働に配慮した貧困削減や教育支援の国際協力を進めてください。
2. とくに、少女の置かれている厳しい状況に対し児童労働対策と教育の両方から取り組みを強化し、ミレニアム開発目標の中に掲げられている「初等・中等教育における男女格差を解消する」の実現に向けた国際協力を進めてください。
3. 二国間のODAに占める基礎教育の割合を増やしてください。日本は他の先進諸国と比べて基礎教育の割合が大変低く、2005年ではわずか0.9%です。これを、先進国22カ国の平均1.8%(2005年、DAC平均)まで、引き上げてください。*
4. 以上のことを実現するために、関係省庁とJICA、NGO、労働組合等が意見交換を行う会議を開催し、定期的な協議の場を設置してください。

6月末までの締め切りを1ヵ月延長し、8月7日の最終報告後も署名が寄せられ、2009年9月24日時点で73,988名分(紙媒体:72,677筆、インターネット:1,311筆)が集まりました。全国から毎日郵送及びFaxにて署名が寄せられ、個人の方だけでなく、労働組合や教育委員会等からのご協力により、昨年実施した署名12,004筆の6倍以上になりました。ご協力くださった皆様ありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後は9月末から10月にかけて、外務省、厚生労働省、文部科学省の各省に署名を届けて参ります。



全国各地からご協力いただきました。ありがとうございます!

●缶バッジ

今年は、たくさんの人たちに児童労働を知らせ、Stop Child Labour(児童労働をなくそう!)のメッセージを広げるツールとして、缶バッジを販売しました。「ひとつは自分に、もうひとつはお友だちに」という趣旨の2個セットの缶バッジは、一つは白の下地に「STOP CL」と書かれ、文字の色は5色(黒・赤・緑・水色・ピンク)あります。もう一つにはガーナの子どもたちが自分にとって「好きなこと」「大切なこと」の絵が描かれています。

そして、トレードマークは「カタツムリ」。その殻には世界に2億1800万人の子どもが背負う児童労働という重荷と、悲しみがつまっています。その重荷を分け合い、コツコツとでも確実に子どもたちの未来をひらく歩みを進めるために!

この缶バッジ500円の売上のうち300円が、児童労働にとりくむ活動への寄付になります。現在までに約1300個の缶バッジが販売されました。缶バッジを販売したキャンペーンの賛同団体からは、缶バッジによって得た売上げを「児童労働の記事や情報を発信するサイトの充実」「児童労働に関するイベント会場や広報」「フェアトレードの普及・推進活動による児童労働の減少への貢献」「働く子供たちへ教育の機会を提供」するために活かしていきますとの表明がなされました。



ガーナの子どもが描いた絵と
全5色の「STOP CL」の缶バッジ



カタツムリのトレードマーク

●海外招聘ゲストシンポジウム

「児童労働の現状とNGOの政策提言ーインドとEUの経験に学ぶー」

児童労働ネットワークでは、国際的なネットワークの強化を目的に、ぐらん・草の根市民基金から助成金を頂き、インドとオランダから海外ゲストを招いてのシンポジウムを6月27日(土)に法政大学にて開催しました。当日は大学生など53人の参加者がありました。



海外招聘ゲストと共に法政大学にて行ったシンポジウム(6/27)



ラガット・ヴェンカット・レディ氏
M. V. Foundation
プロジェクト・ディレクター
<http://www.mvfindia.in/>

ラガット・ヴェンカット・レディ氏の基調講演においては、インドにおける児童労働を防止するための青年育成活動の映画と共に M.V.Foundationの活動であるが紹介されました。このNGOは過去10年以上も、公式学校へのブリッジ(つなぎ)・コースキャンプ、政府社会福祉ホステル及び寄宿学校を通して、全ての形態の児童労働の廃止と児童労働の公式学校への主流化に向けて活動しています。



ヴェロニック・フェイエン氏
2009年「ストップ・児童労働ー学校が最良の解決策キャンペーン」
国際コーディネーター

また、ヴェロニック・フェイエン氏においてはオランダ、デンマーク、ドイツ、アイルランド、イタリア及びチェコ共和国のNGOからなる「ストップ児童労働ー学校が最良の解決策」キャンペーンの結果に関する報告と共に、私達が身近に関わっている製品が児童労働によって作られているという具体例を挙げながらヨーロッパにおけるCSRへの取り組みが紹介されました。

パネルディスカッションにおいては、新谷氏が日本における児童労働に関するCSRの取り組みや企業とNGOの関係を紹介。白木氏は児童労働の活動を行っているNGOであるACEの活動を紹介しながら、日本にも昔は児童労働が存在していたという事実を紹介しました。



質疑応答セッションにおいては、ラガット氏は「児童労働の最大の加害者は誰か?」という質問に対し、「無関心であること」と強調。フェイエン氏においては、「世界的な不況の中、児童労働でつくられていない高価なフェアトレード商品の購入を推進するのは難しいのではないか」という質問に対し、「フェアトレード商品は私達がお金を持っているから購入するという社会的背景ではなく、子どもの権利を守るために購入する行動であるので不況というのは影響しない」と主張しました。

今回、ゲストやパネリストが主張していた共通点は、「児童労働というのはこの世からなくすることができる」という点でした。

キャンペーンイベントレポート 今年のキャンペーンは、福岡、大阪、愛知、宮城等全国各地で18のイベントが行われました。

福岡「写真展：フィリピンの子どもたち」

(特活)ソルト・パヤタス(以下ソルト)主催の写真展「フィリピンの子どもたち」が、こくさいひろばにて12日間にわたって開催されました。ごみ投棄場という劣悪な環境で働く子どもたちの存在を知ら



せるため、劣悪な環境の中、大人さながらの重労働をする子どもたちの写真と対に、満面の笑みで友達と遊ぶ子どもたち、熱心に勉強している子どもたちの日常を描いた写真などが展示されました。

福岡「カフェで話そう フェアトレードのこと、子どもたちのこと」

福岡の小さなカフェにてソルト主催のイベントが行われ、第1部はフェアトレードについての概要や、NGOや企業の取り組みの事例、身近なお店などを紹介。第2部は、フィリピンのごみ山での児童労働の実情と、現地の母親たちへの収入向上事業についての説明が行われました。フィリピンのソルト・パヤタスの事務所、事業に参加している母親代表5名が集まり、カフェと事務所とをテレビ電話でつなぎ、イベント参加者との間で、実演の時間や、直接会話を交わす時間を設けたところ、参加者から質問が次々と出され、日常生活の



20名でほぼ満席になる小さなカフェには30名を超す人が集まった

の変化や、仕事に対する思いなど、活発なやりとりが交わされ、双方笑顔に満ちた交流となりました。最後に、児童労働反対世界デー・キャンペーンについての紹介が行われ、身近にできることが紹介されました。

福岡「教科書にのっていないアフリカ」

(特活)ワールド・ビジョン・ジャパンが主催した体験型イベントは開催期間中、毎日放送、テレビ西日本、九州朝日放送、NHK等各テレビ局で紹介された他、ラジオ、ウェブ新聞、毎日新聞でも取り上げられ、5日間で合計2,221人の方が来場され、最終日には100人待ちの列ができました。来場者の中には、福岡県内だけでなく近隣の県から来られた方も多く、課外授業の一環として来場された中・高・大学生の方々や、週末にはご家族連れも多く見られました。また、<誘拐されて児童兵に仕立てられ、生き抜くために村々を襲撃する少年の現実><暴力の被害にあう少女の現実><エイズで親を亡くし、幼くして自分たちだけで生きなければならなくなった子どもの現実>等、ワールド・ビジョンが活動の



スティーブンの人生を体験する来場者

中で関わってきた実在するアフリカの子どもの経験を多くの方に生々しく感じてもらえる体験イベントとなりました。

大阪「めっちゃ学校行きたいねん！御堂筋ウォーク 2009」

ウォークやその告知・報道などを通じて、児童労働問題を日本の人々に広く伝え、児童労働廃絶につなげることを目的とした毎年恒例のイベントが今年も(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、(特活)国際こども権利センターの主催で開催されました。今年は「児童労働の子どもの気持ちになりきって、街行く人にアピールしよう!」という企画で、参加者はそれぞれ自分の気になった衣装や小道具(水がめ、銃、プラカードなど)を持ち、御堂筋を歩きました。当日は夏の日差しのような晴天で体力的にも厳しい中、児童労働というものを一人でも多くの人に伝えたい!と一生懸命大きな声でアピールしたり、風船やプラカードを持ったりととても目立つウォークとなりました。今年は参加者同士のつながりも作ろうとウォークの後に、交流会が行われ半数以上の方が参加しました。



40名の参加者が交代で掛け声のリードをした

大阪「子どもの未来のためのアクションデー」

(社)アムネスティ・インターナショナル日本は、児童労働について知ってもらい、実際に政府に手紙を書いて行動してもらおうと2日間のイベントを開催しました。どのテーマ(綿・子ども兵士・カカオ)で手紙を書くか選んでもらい、テーマや手紙の書き方の説明後、大統領宛の手紙を書いてもらいました。また、1階では写真パネル展も同時開催されました。参加者とは、ゆったりと話をしながら手紙を書いてもらうことができ、小学生たちは楽しそうに手紙を書いていました。



愛知「児童労働勉強会」

(特活)アジア日本相互交流センター・ICANが開催したイベントでは、フィリピンにおける児童労働に関する映像の上映後、児童労働の基本的知識・現状の情報共有がなされ、参加者全員で児童労働撲滅に向け自分に何が出来るかを考えるワークショップを実施。グループごとに話し合った結果、「児童労働の現状・課題点について知り多くの人に伝えること」「法整備の強化」「親や子どもに対する経済的支援」「NGOの会員になる」「フェアトレードの推進」等の意見が挙げられました。

児童労働撲滅には、様々なレベルでの取り組みが必要だが、子どもたちの声を事業に取り入れ、子どもたちと「ともに」活動していく重要性を参加者らは共有しました。



世界フェアトレード・デー2009

5月9日東京・丸ビルにてグローバル・ヴィレッジ/ピープル・ツリーが開催した「世界フェアトレード・デー2009」には、830人の参加者が集まりました。日本のフェアトレード6団体が参加したロビーエリアのフェアトレード・マーケットにはバナナからファッションまで幅広いアイテムがならび、質問する熱心な参加者も多くみられ、「児童労働反対世界・デー」の缶バッジも販売されました。

イベントは国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問、末吉竹二郎さんの講演でスタートし、フェアトレードの意義と一人ひとりの行動を促すメッセージが発信されました。ホールではインドからの生産者パートナー団体の代表2名を迎え、フェアトレードの現地へのインパクトについて話す「フェアトレード+エコロジーとコミュニティ開発」シンポジウムを開催。ファッション・ジャーナリストで元「マリ・クレール」編集長の生駒芳子さんとグローバル・ヴィレッジ/ピープル・ツリー代表のサフィア・ミニーがファッションとのフェアトレードについての対談も行われました。フェアトレード・ファッションショーでは、人と環境へのやさしさと、ファッション性を両立させたフェアトレード・ファッションを12名のプロのモデルがまとめてアピールし立ち見となるほどの盛り上がりを見せました。

フィナーレには国内外で活躍する和太鼓グループ「GOCOO」のスペシャル・パフォーマンスが飾り、ファッション・ショーとライブの動画は世界フェアトレード機関(WFTO)のウェブサイトの世界に発信されました。また、ワークショップコーナーでは「フェアトレード・ヘンプの手作りアクセサリー・ワークショップ」や学生グループによる「貿易ゲーム」が開催されました。



ACE チョコファシリテーター育成連続講座 第1回「おいしいチョコレートの真実」ワークショップ体験

「身近なチョコを題材に世界の子どもたちの授業がしたい」、「カカオ産業の児童労働に対して、できることをしたい!」という方々、30名を対象にACEが開発したワークショップができる「チョコファシリテーター」の育成を目的に連続講座の第一回目として、ワークショップ体験のイベントを開催。

私たちの生活とカカオ農家の生活がつながっていることや子どもが働かざるを得ない状況を体感するために、まずはクイズでチョコレート、カカオに関すること、そしてカカオ産業における児童労働の問題について学習後、カカオ産業に関わる日本とガーナの家族の生活の違いをグループワークで体験しました。参加者は日本とガーナの経済的な違い、国内での格差、カカオの価格変動によって収入が減って子どもを学校に通わせることができなくなった家族の心境やグローバルな社会の仕組みを実感しました。グループワークで体験したことを整理するため、ガーナで撮影してきた農園の様子やカカオ産業の児童労働に関する補足説明をDVDで上映。

私たちが出来ることの優先順位をグループで考えることで、参加者同士で悩みを共有したり意見交換したりと、活発なコミュニケーションがありました。

映画「チョコラ！」

「チョコラ！」を見る会は、5月9日～6月12日の間、渋谷のユーロスペースにて、ケニアの児童労働のテーマを扱った映画「チョコラ！」の上映会を行いました。35日間で2,900人ももの来場者があり、トークショーやミニライブを通じて多くの人に現状を知ってもらう機会となりました。

第6回 ACE チャリティフットサル大会

今年で6回目を迎えたACEチャリティフットサル大会は、32チーム総勢約300名が参加した過去最大規模の大会となりました。

毎年恒例の「サッカーボウリング」では、試合の合間に100名以上の方が参加し、上位の人には景品をプレゼント。予選リーグと決勝トーナメントの間には、サッカーや児童労働に関するQ&Aを実施しACEが取り組み始めたインドのコットン産業における児童労働についても出題。

当日会場では、浦和レッズの高原直泰選手、都築龍太選手、エジミウソン選手からご提供頂いたサイン入りグッズのチャリティーオークションも実施しました。また、浦和レッズOBの西野努さんにご協力頂き、初めてサッカークリニックとトークセッションを実施し楽しいトレーニング方法や、児童労働の問題に対して思うことや信じることの大切さなどを教えて頂きました。

本大会では、フットボールブランド「SFIDA」のフェアトレードボールを試合球に使用しており、「Stop Child Labour(児童労働)」のロゴが印字され、ボールを作る大人の職人達に適正な給料と労働環境を提供し、児童労働がないことを証明しています。大会を通じて集まった384,005円の80%はACEがインドで行う「子どもにやさしい村」プロジェクトに、20%は国内事務局経費として活用されます。



児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川 2009

NTT 労組神奈川県グループ連絡協議会主催の「児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川 2009」が、5月30日、横浜そごう前の新都市プラザで行なわれました。キャンペーンでは、児童労働撲滅に向け活動しているNPOの代表者が活動報告を行なったほか、児童労働の実態等を伝える写真パネルを展示しました。

また、幼い子どもたちが実際に強いられている「サッカーボール縫い」を体験できるコーナーでは、多くの参加者が訪れ、過酷な労働をしている子どもたちの思いを感じていました。買い物客や通行人を含め、数多くの来場者へ児童労働問題の実態を伝える機会となりました。

写真展「世界中の働く子どもたちに笑顔を」

(特活)グッドネーバーズ・ジャパンは、児童労働の存在を「知ること」「知ってもらうこと」が第一歩であると考えています。「たまたまカフェにきたら、児童労働として働く子どもの写真が飾られていた。はじめて、児童労働を目にした。」といった多くの人々に見てもらい、何かを感じ考えるきっかけとなればとの思いから、都心のカフェ Cue Café において 16 日間の写真展を開催しました。

スタイリッシュな空間で奥行きのあるカフェの壁には、働く子どもたちの写真と勉強を楽しむ子どもたちの写真を展示。同時に、児童労働反対缶バッジ、END POVERTY ストラップ、バングラデシュ女性作製のしおり等の販売も行いました。飲食店という場所柄、あまり刺激の強い写真は控えると同時に、働く子どもたちの状況を詳しく紹介した冊子を皆様に無料で配布することで、「世界には、過酷な仕事を強いられている子どもたちがいる」ことを多くの方に「知ってもらうこと」の機会を提供する場となりました。

キッズウォーク 2009

(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが主催したキッズウォーク 2009 は、東京ユニオンチャーチの礼拝堂を借りて児童労働について学ぶ子ども集会から始まり、朗読劇をして児童労働の現状を訴えました。

次に東京ユニオンチャーチ集会→表参道→原宿駅前→渋谷駅前→神宮前公園を巡る子どもだけのウォークを実施し、約 50 人の方が参加しました。



第2回 持続可能な社会のためのサステナビリティ・セミナー

エコロ・ジャパン主催のセミナーは、持続可能な社会のテーマに即した次世代の啓発を目的とし、「有機農業と持続可能な社会」「情報公開と参加民主主義」「森林貿易と持続可能性」「世界における児童労働の実態」「ベーシック・インカム(最低所得保障)」に関して講演が行われました。

ACE 代表・岩附由香氏が「世界における児童労働の実態」において世界のコットン(綿花)の貿易の現状をクイズ形式のデータで紹介。世界の主要な児童労働の現状が報告され、現状に対する児童労働の定義や国際条約の内容、インドのコットン産業をめぐる児童労働の実態に関する報告も画像とともに紹介。児童労働への取り組みとして、米国労働省および NGO の事例が報告された後、日本の児童労働への取り組みに関する提言、さらに「安心・安全で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議」における政策提言の現状が紹介されました。

Café ACE

6 月 12 日の児童労働反対世界デーの当日、ACE は代官山のカフェにて、Café ACE 6/12 特別バージョンを開催し、学生から社会人まで 15 名の方が参加しました。3 月に ACE を取り上げられたテレビ番組の一部を紹介した後、児童労働の現状や ACE の成り立ちについて紹介。その後、代表の岩附と事務局長の白木のトーク形式で、ACE が活動を始めた時のことやこれまでの変化、今後 ACE が目指すことなどについて言及しました。

当日は ACE オリジナルグッズの新商品、「オーガニックコットンのタオルハンカチ」の発売日。参加者のみなさんにも「かわいい」とご好評だったハンカチの売上は、700 円のうち 100 円がインドのコットン生産地で行うプロジェクトの資金として役立てられます。

また、今年スタートした ACE のユースチーム PeACE からは、家で眠っている T シャツなどを小さなはぎれにして再利用し、はぎれ 1 枚 1 枚にインドのコットン地域で働く子どもたちへメッセージを書いて集め、それをつなぎあわせて大きなメッセージ T シャツを作ろうという「T シャツで心をつなぐ」プロジェクトの紹介がされました。



最後は、みんな「ストップ児童労働」と言いながら記念撮影。終了後も熱気が冷めやらず、参加者同士の交流やスタッフとの会話が続けていました。

公開講座「借金返済のため労働を強いられる子どもたちの現状～インドでの債務労働の実態と日本の関わり～」

(特活)国際子ども権利センター主催の宮城大学で行われた公開講座は、諸外国と比較した日本企業における CSR の中で、特に人権、労働分野における貢献度が低いという報告に始まり、中



でも成果を挙げているコーズリレイテッドマーケティングによる国際協力の例を紹介。児童労働問題解決に向けて消費者として日本人や日本企業ができることが提案されました。

次にインドのシルク産業における債務児童労働の現状、法律、政治的意思の欠如の問題などの報告がされ、カーペット産業と比較してシルク産業における児童労働の問題は国際的注目が低い反面、シルク製品の全ての工程において債務児童労働が存在していることが画像と共に紹介されました。

カンボジアの最悪の形態の児童労働については、代表的な危険な児童労働の現状を画像で示した後、レンガ工場で働く子どもたちが腕切断など大ケガをする危険にさらされている様子を動画で紹介。子どもたちがこうした危険な労働で搾取されないようにするためにどんな対策が必要かが報告されました。最後に櫻木氏より、ジェンダーと自尊感情の問題に触れながら、CSR と組織運営の課題について問題提起がありました。

●2009年キャンペーン・イベント一覧

日程	イベント名(会場)	主催	実施地	参加者数
5月9日(土)	世界フェアトレード・デー2009	グローバル・ヴィレッジ	丸の内ビルディング(丸ビル) (東京都千代田区)	830
	ワークショップ「おいしいチョコレートの真実」	(特活)ACE	JICA 地球ひろば (東京渋谷区)	30
5月9日(土) -6月12日 (金)	『チョコラ!』劇場公開	『チョコラ!』を見る会	ユーロスペース (東京都渋谷区)	2900
5月16日(土)	第6回 ACE チャリティフットサル大会	(特活)ACE	FUTSAL POINT J-Foot 浦和美園 (埼玉県さいたま市)	300
5月22日(金) -6月2日(火)	写真展:フィリピンの子どもたち	(特活)ソルト・バヤタス	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	500
5月30日(土)	児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川	NTT 労働組合	新都市プラザ (神奈川県横浜市)	1000
5月30日(土) -6月14日 (日)	写真展~世界中の子どもたちに笑顔を	(特活)グッドネーバース・ジャパン	Cue café Daikanyama (東京都渋谷区)	1786
6月3日(水) -6月7日(日)	教科書にのっていないアフリカ	(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	2221
6月6日(土)	めっちゃ学校行きたいねん! 御堂筋ウォーク 2009	(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (特活)国際子ども権利センター	大阪府大阪市	40
	最悪の児童労働と少女 ~闇の子供たち上映会+シンポジウム~	児童労働ネットワーク NGO-労働組合国際協働フォーラム ILO 駐日事務所	全電通労働会館 (東京都千代田区)	400
6月7日(日)	キッズウォーク2009	(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	渋谷・表参道から神宮前公園まで	50
6月10日(水)	公開講座「借金返済のため労働を強いられる子どもたちの現状 ~インドでの債務労働の実態と日本の関わり~」	(特活)国際子ども権利センター	宮城大学 (宮城県黒川郡)	30
6月12日(金)	Café ACE「カフェで話そう 児童労働のこと、自分にできること」	(特活)ACE	Cue café Daikanyama (東京都渋谷区)	15
	カフェで話そう フェアトレードのこと、子どもたちのこと	(特活)ソルト・バヤタス	Café azul (福岡県福岡市)	32
6月12日(金) -13日(土)	子どもの未来のための アクションデー	(社)アムネスティ・インターナショナル日本	アムネスティ大阪事務所 (大阪府大阪市)	39
6月21日(日)	持続可能な社会のためのサステイナブル・セミナー	エコロ・ジャパン	JICA 地球ひろば (東京渋谷区)	50
6月27日(土)	児童労働勉強会	(特活)アジア日本相互交流センター・ ICAN	COMBI 本陣 (愛知県名古屋市中)	21
	児童労働の現状とNGOの政策提言 -インドとEUの経験に学ぶ-	児童労働ネットワーク 法政大学大原社会問題研究所	法政大学 (東京都千代田区)	53

イベント参加合計人数 10297人

●2009年 児童労働反対世界デー・キャンペーン 決算

【収入】

単位(円)

大科目	項目	2009年予算	2009年決算	内訳等
キャンペーン運営費	賛同団体	170,000	65,000	5000円×13口(12団体)
	賛同個人	40,000	2,000	2000円×1口
	賛同企業	20,000	60,000	1万円×6口(2企業)
NGO労働組合国際協働フォーラムより		150,000	166,876	広報物作成費 15万円 文具代、送料、印刷費 16,876円
CL-Net 予算より(ぐらん助成金を含む)		236,744	187,379	ぐらん助成金 13万円(全体50万円のうち、キャンペーン使用分)
寄付		0	0	
収入合計(A)		616,744	481,255	

【支出】

大科目	項目	2009年予算	2009年決算	内訳等
広報費(印刷物)	ポスター	21,744	19,900	A2、片面(フルカラー)×200枚、6/6イベント広報を兼ねる
	ちらし	120,000	161,647	A3、両面カラー×2万枚、6/6イベント広報を兼ねる
	写真使用料	24,000	0	ACE、「闇の子供たち」より無償提供
	ちらしデザイン料	50,000	50,000	ちらし、ポスターデザイン代として
広報費(ウェブサイト)	ウェブデザイン料	10,000	10,000	ウェブサイト用バナーデザイン代として
	ウェブサイト作業費	50,000	50,000	ウェブサイト更新・管理作業代として
	ドメイン管理料	3,690	3,390	
署名関連費用	署名カード作成費	50,000	399	内部印刷
	署名報告郵送費	0	8,880	署名協力者への報告111通を郵送
署名パネル	パネルボード	44,000	0	作成せず
	ラベル		0	作成せず
送料		10,000	26,745	ちらし、ポスター発送料
消耗品		15,000	10,385	封筒、紙代、文房具等
印刷費		20,000	8,622	メインイベント配布物
交通費		5,000	0	
イベント支援費		50,000	30,000	10,000円×3団体
予備費		43,310	1,287	振込手数料等
アルバイトスタッフ交通費・アルバイト代		100,000	100,000	
支出合計(B)		616,744	481,255	
収支合計(A-B)		0	0	

●キャンペーンを振り返って＜成果と課題＞

キャンペーンは今回で4回目を迎えました。本年のキャンペーンは、2009年5月5日～6月30日の間、CL-NETの会員団体19団体、キャンペーン賛同団体・企業14団体を含めて33団体(昨年度より1団体増)によって実施されました。会員団体、賛同団体のみなさま、ご協力ありがとうございました。

期間中は会員団体・賛同団体により18イベントが開催され、のべ10297人がイベントにご参加くださいました。これは昨年度の参加人数を下回る結果となりましたが、昨年はG8サミットやTICADなどの国際会議に向けた動きが活発で、その関連でのイベントも多く開催されたため特別に多かったこと等が考えられます。

毎年恒例となっている6月12日の児童労働反対世界デー付近の週末に行う映画&トークは、今年は「闇の子供たち」の上映を行い、参加者アンケートでも高い満足度を得ました。また今年初めてNGO活動紹介デスクを同じ会場に設け、当日ご参加いただいた皆様、出展団体の活動を知り、書籍などの物品購入が出来る場を設けました。アンケート結果を見ても好評で、キャンペーン参加団体と一般市民をつなぐ場としての役割を担えたのではないかと思います。本年は例年行っているウォークの代わりにアクションとして映画&トークのイベントの後に写真撮影を行い(表紙の写真)、児童労働に反対するグローバルマーチのウェブサイトに掲載されるなど、世界への発信を行うことが出来ました。このアクションの内容は今後の検討課題です。

キャンペーンの期間中に行った署名活動については、3万の目標を掲げ、期間を1ヶ月延長して署名を募りました。最終的に予想を大幅に上回る7万を超える署名を集めることができ、児童労働問題への関心の高さを現しています。この署名数と、イベント参加者とあわせて、のべ8万を超える方にこのキャンペーンにご参加をいただいたことになります。本署名活動においては、組織的に取り組んでいた団体があったことで署名数が飛躍的に伸びましたが、それ以外にも個人の方からもたくさんの署名をいただきました。ご協力いただいた方々、ご紹介いただいた皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

署名の提出については、8月末に総選挙が行われるという政治状況を見て、新内閣発足後の提出を関係省庁に行くことを児童労働ネットワーク運営委員会で確認させていただきました。その結果、署名提出のご報告をこの短風に掲載することはできませんでしたが、今後ウェブサイトで報告をさせていただきます。署名数が昨年の12,004人から飛躍的に増えたことは、本年のキャンペーンの大きな成果といえます。この署名を今後いかに政策実現に活かしていけるかが今後の課題です。

本年は新しい試みとして、児童労働ネットワークが缶バッジを製作し、それを期間中に会員・賛同団体に購入いただき頒布・販売いただくことで、キャンペーンの広がりをねらいました。児童労働撤廃の活動への支援にもなるこの缶バッジを今後どのように有効活用するかが課題です。



本年のキャンペーンにご参加、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。児童労働ネットワーク運営委員一同、来年のキャンペーンへ向けて課題解決に取り組む所存です。みなさまの引き続きのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

児童労働ネットワーク会員団体(19)

(特活)アジア日本相互交流センター(ICAN)
(社)アムネスティ・インターナショナル日本
(特活)ACE
(特活)エファジャパン
(特活)日本オーガニックコットン流通機構
(特活)国際子ども権利センター
国際食品労連日本加盟労組連絡協議会
(IUF-JCC)
(財)国際労働財団(JILAF)
(特活)グッドネーバース・ジャパン
グローバル・ヴィレッジ

(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
Save Children Network
(特活)ソルト・パヤタス
日本労働組合総連合会
働く子どもの「遺産と伝説」キャンペーン
(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
UIゼンセン同盟
フード連合
フェアトレード・リソースセンター

キャンペーン賛同団体(14)

アジアの女性と子どもネットワーク
(特活)アーユス仏教国際協力ネットワーク

(特活)アフリカ日本協議会(AJF)
エコロ・ジャパン
NTT労働組合
(特活)かものはしプロジェクト
教育協力NGOネットワーク
合同出版(株)
世界子ども通信プラッサ
「チョコラ!」を上映する会
(特活)テラルネッサンス
(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(特活)ヒューマンライツ・ナウ
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン

児童労働ネットワーク(CL-Net)は会員を募集中です!!

会員になると、会員のメーリングリストや学習会、運営会(オブザーバー参加)に参加することができます。

会員になるには?

○郵便振替口座: 00160-8-685281
口座名義: 児童労働ネットワーク
○銀行振込口座: 三菱東京UFJ銀行 上野支店
普通口座 5413699
口座名義: 児童労働ネットワーク

○会員の種別と会費(会費期限は毎年10月～9月)

正会員 (総会での議決権あり)	団体	一口10,000円 (一口以上)
	個人	一口5,000円 (一口以上)
協力会員 (総会での議決権なし)	個人	一口1,000円 (一口以上)

(※振替用紙の通信欄には、必ず会員の種別と口数をご記入ください。)

■この短気は児童労働ネットワークのイベントにご参加いただいたみなさま、またネットワークの会員団体とつながりのある皆様にお送りしています。送付先の変更や送付不用の場合は事務局までご連絡ください。

児童労働ネットワーク(CL-Net)事務局(2009年8月にACEの事務所移転に伴い住所が変わりました)

〒110-0015 東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3階 (特活)ACE内
TEL:03-3835-7555 FAX:03-3835-7601 E-mail: info@cl-net.org URL: http://cl-net.org/